

介護のことなら



長野 ショートステイ

令和6年5月5日 山新田の藤棚を観に行きました。



遠くに北アルプスが望める澄んだ日でした。



見晴らし公園「藤棚」

昭和五十一年（一九七六）、ここに「区民の憩いの場」として「藤棚を創ろう！」との発案がまことり、区を挙げて長野市に請願がなされ藤棚の設置が決定した。

同年十一月三十日には柳原長野市長らを迎え、多くの区民の出席で、藤の苗木の植樹祭が盛大に実施された。

そして翌年五月には藤棚の建設が着工された。

しかし、この藤棚建設地の地形は東西傾斜と南北傾斜が重なり、且つ、ひょうたん形をした変形の為、施工業者もこうした地形での纏束ての技術に乏しくその完成に不安を抱えていた。

しかし、当時の山新田地区では、ビールの香料となる「ホップ栽培」が盛んであった。ここで傾斜地でも且つ複雑地形でのホップ棚建設の技術を持ち、またその栽培者であった、地元のベテラン三人が選ばれて、その纏束て作業を委託され建設が無事完了する。

またこの時、外柱の各支脚のステー（埋設基礎）の穴掘り（全七六箇所）も区民が出動して手伝い、棚建設に協力した。

そしてこれに合わせ、「一本だけでも早く、毎年花を見たい」との提案で、近くの森から野麻（のふじ）の太木をこぎだし、大勢の手で棚の柱の中央に移植し、見事にこれを根付けさせた。

以来、三十年間、歴代区民の協力により「夏の下巻列り」と「秋の菊定作集」を、愛情を込めて続けてきたお蔭で、今では優しい薫りとともに、華麗で優美な花を纏いっぱいに咲かせる大樹に成長いたしました。

平成十七年十二月 山新田地区活性化プロジェクト
（平成十七年度ながのまちづくり活動支援事業補助）

